

高知工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	校外実習
科目基礎情報						
科目番号	0020		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実習		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	物質工学科		対象学年	4		
開設期	集中		週時間数			
教科書/教材	校外実習のしおり					
担当教員						
到達目標						
1. 企業等における技術者の実務を理解できる。 2. 課題解決へのアプローチの方法を考えることができる。 3. コミュニケーション能力や主体性等の技術者が備えるべき能力の必要性が理解できる。 4. 実際の企業人等との仕事を通して自身のキャリアデザインを明確にすることができる。 5. プレゼンテーションによって実習で得た内容等が説明できる。 6. 責任感、礼儀作法、行動力、勤労観・職業観など社会人力の重要性が理解できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	企業等における技術者の実務を理解し、分析することができる。		企業等における技術者の実務を理解できる。		企業等における技術者の実務を理解できない。	
評価項目2	コミュニケーション能力や主体性等の技術者が備えるべき能力の必要性が理解し、自己啓発することができる。		コミュニケーション能力や主体性等の技術者が備えるべき能力の必要性が理解できる。		コミュニケーション能力や主体性等の技術者が備えるべき能力の必要性が理解できない。	
評価項目3	実際の企業人等との仕事を通して自身のキャリアデザインを明確にし、将来の目標を設定することができる。		実際の企業人等との仕事を通して自身のキャリアデザインを明確にすることができる。		実際の企業人等との仕事を通して自身のキャリアデザインを明確にできない。	
評価項目4	実習で得た内容等を深く理解した上で、プレゼンテーションによって詳細な説明できる。		プレゼンテーションによって実習で得た内容等が説明できる。		プレゼンテーションによって実習で得た内容等が説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	企業等における製造、設計、技術開発、工事等の実務の実態に触れ、学校で修得した知識および技術を裏付け、技術者としてまた社会人としての自覚を持たせる。また、実習先における独自技術に触れることにより、問題解決へのアプローチの方法を学び、実践的な技術感覚を養う。					
授業の進め方・方法	原則として夏季休業中に、2週間以上企業等に派遣し、実践的、技術的訓練を受けさせる。実習終了後、実習報告書を作成し、実習報告会で自作のプレゼンテーション資料を用いて発表を行う。 1. 希望調査と受入依頼 4月当初、担任は学生の履修希望調査を行い、人数に合わせて企業等に受入依頼する。 2. ガイダンス 校外実習に関するガイダンスは担任からも行うが、全実習生に対して教務主事室によるガイダンスが6月に行われる。 3. 実習報告会 実習報告集を印刷・製本し、それに基づいて1人発表5分、質疑2分程度の発表を行う。 詳細は「校外実習のしおり」参照のこと。					
注意点	1単位（実働4日～8日未満）、2単位（実働8日以上）。 企業等から提出された「実習評定書」、本人の「実習報告書」、報告会での発表等を総合的に評価し、評定は可否で行う。外部評価の1つである実習評定書の内容を重視し、仕事に対する責任の自覚や、その仕事と社会との関わりについての理解の程度を評価する。合わせて問題解決能力の程度を評価する。 学校ではできない貴重な経験ができますので、履修を勧めます。 実習先等に迷惑をかけないように、ルール、マナーを守って行動してください。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	原則として夏季休業中に、2週間以上企業等に派遣し、実践的、技術的訓練を受けさせる。	1. 企業等における技術者の実務を理解できる。 2. 課題解決へのアプローチの方法を考えることができる。 3. コミュニケーション能力や主体性等の技術者が備えるべき能力の必要性が理解できる。 4. 実際の企業人等との仕事を通して自身のキャリアデザインを明確にすることができる。 5. 責任感、礼儀作法、行動力、勤労観・職業観など社会人力の重要性が理解できる。		
		2週	原則として夏季休業中に、2週間以上企業等に派遣し、実践的、技術的訓練を受けさせる。	1. 企業等における技術者の実務を理解できる。 2. 課題解決へのアプローチの方法を考えることができる。 3. コミュニケーション能力や主体性等の技術者が備えるべき能力の必要性が理解できる。 4. 実際の企業人等との仕事を通して自身のキャリアデザインを明確にすることができる。 5. 責任感、礼儀作法、行動力、勤労観・職業観など社会人力の重要性が理解できる。		
		3週	実習終了後、実習報告書を作成し、実習報告会で自作のプレゼンテーション資料を用いて発表を行う。	プレゼンテーションによって実習で得た内容等が説明できる。		
		4週				
		5週				
		6週				

後期		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	技術者倫理 (知的財産、 法令順守、 持続可能性 を含む)およ び技術史	技術者倫理 (知的財産、 法令順守、 持続可能性 を含む)およ び技術史	説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	3	前1,前2,前3
				現代社会の具体的な諸問題を題材に、自ら専門とする工学分野に関連させ、技術者倫理観に基づいて、取るべきふさわしい行動を説明できる。	3	前1,前2,前3
				技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。	3	前1,前2,前3
				社会における技術者の役割と責任を説明できる。	3	前1,前2,前3
分野横断的能力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	3	前1,前2,前3
				公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	3	前1,前2,前3

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	実習評定書等	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	30	30
専門的能力	0	0	0	0	0	30	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	40	40